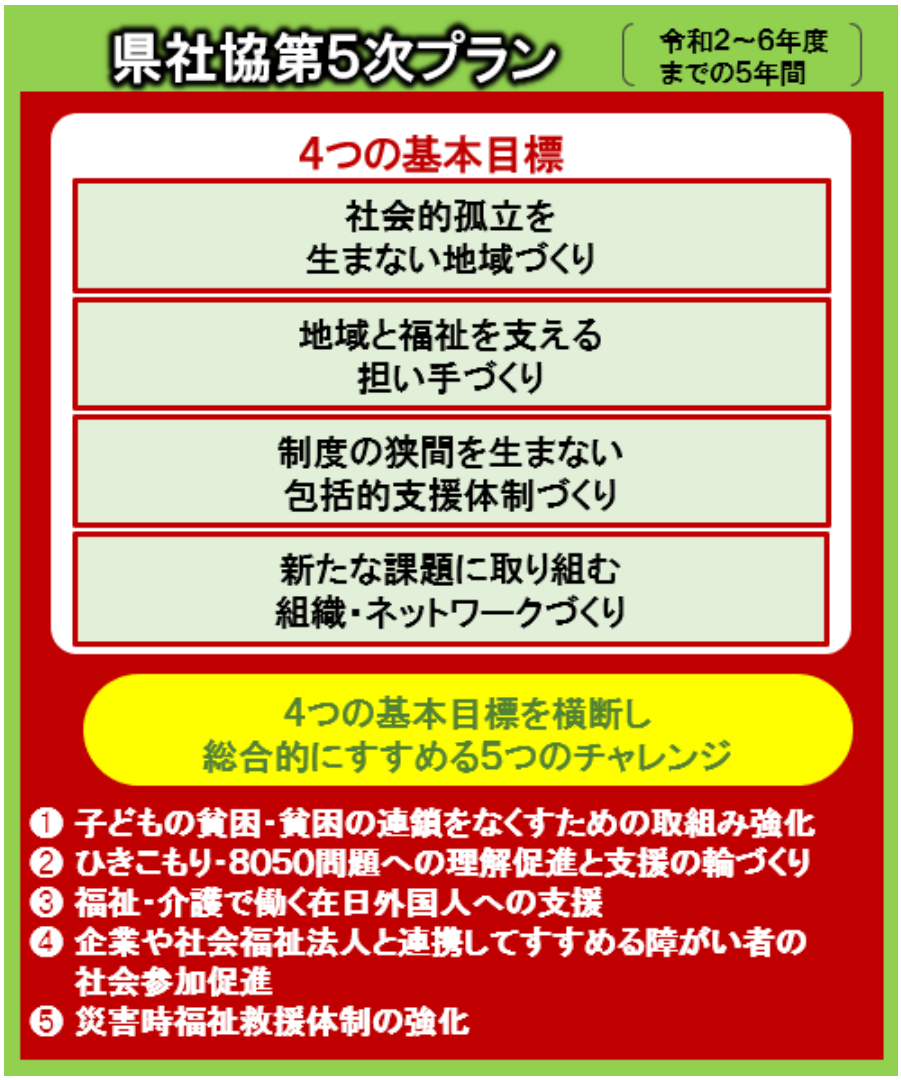
「第5次ふくい地域福祉プラン 21」中間評価の実施について



1 評価に際しての着原点とその成果

(1) 中間評価を行うにあたっての視点

① 一つ一つの取組みで「**大事にしている(したい)ことは何か」を具体化**する。
② 「どれくらいの**見込みをどの程度達成できたか」を数値化**する。
③ 評価指標とめざす**目標との因果関係やストーリーを意識**する。
④ 評価の過程で、**具体的な成果とともに潜在的な課題**を浮かび上がらせる。
⑤ 新設した「**チャレンジ項目**」は、**課所・事業間の横断や重層化を意識**して評価する。
⑥ **事務局職員がプランに向き合う**。
⑦ 評価結果は、**対外的にも周知・広報**していく。

（2）評価実施による効果

① 日々取り組んでいる事業活動の**評価基準の標準化**がすすんだ。
② 設定する**目標の意義や目標達成までの展開をストーリーとして意識**できた。
③ 事務局（職員）内の**情報やノウハウ、取組みの重層化をイメージ**することができた。
④ **あるべき姿と現状（問題点）とのギャップ**が明確になった。

2 評価結果の概要

（1）評価を行った2つの枠組み

【 評価Ⅰ 】				
「達成目標」に付随する「取組み事業（107 項目）」を評価				
基本目標	推進方策	達成目標	取組み事業	**評価指標**
4	⇒ 16	⇒ 26	⇒ 107	**107の取組み事業ごとに設定**

【 評価Ⅱ 】			
「チャレンジ項目」に付随の「実施内容（76項目）」の実績と進捗評価			
チャレンジ項目	チャレンジ内容	実施内容	**評価指標**
5	⇒ 12	⇒ 76	**76の実施内容の進捗を評価**

（2）評価ⅠおよびⅡの結果

評価Ⅰの評価内容	
ア）おもな評価指標	1つの取組み事業につき、1指標を設定 ▽【率】（定率／伸長率）、▽【回数】（単年／累積）／ ▽【人数】（単年／累積）
イ）達成目標と評価指標との因果関係	評価指標が達成目標にどう関連していくのかをストーリー（物語）として整理
ウ）今期の最終目標と中間評価	今期終了時点の最終目標と令和4年5月時点での達成進捗を評価指標に基づいて数値化
エ）最終目標達成に向けた取組み	最終目標値を達成するための具体的な取組みを整理
オ）計画終期に向けた取組み課題	中間評価を踏まえ、今後に残された課題を整理

【基本目標1】社会的孤立を生まない地域づくり《推進方策№1～4》

○ こどもや元気高齢者、ボランティア活動者などを対象に、学びの場や啓発の場づくり、情報提供などを通じて、地域づくりへの主体的な参加を促す取組みがすすんでいるが、引き続き、**具体的な生活課題の把握**に努めていく必要がある。

○ 平時や災害時に生じる福祉課題を解決していく共生社会の実現に向け、市町社協や福祉施設、民生委員児童委員など**多機関とのネットワークの基盤を活かす協働の取組み**が求められている。

【基本目標2】地域と福祉を支える担い手づくり《推進方策№5～7》

○ 生きづらさや福祉課題の解決に向け、福祉専門職の養成・育成を図る体系的で広域的な取組みはすすんでいるが、**将来に向けた福祉・介護人材の安定的な確保、すそ野の拡がり**という点では課題が残っている。

○ 支え合いや助け合い活動を地域で担う**県民の主体的な参加の引き出し**という点では、直接的に働きかける機会や手段が少ない点も課題となっている。

【基本目標3】制度の狭間を生まない包括的支援体制づくり《推進方策№8～13》

○ 個別の制度・法令に基づく支援や取組みは、一定の基盤のもとですすめているが、制度の狭間やすき間の課題の解決に向け、**市町社協、社会福祉法人、企業や福祉関係者などとのネットワークを県域・広域で重層的に活用していく場や仕組みづくり**という点では課題が残っている。

【基本目標4】新たな課題に取り組む組織・ネットワークづくり《推進方策№14～16》

○ 多様な関係者と福祉課題の共有と協働を引き出すための情報の受発信、安定的な組織運営に向けて、**既成概念にとらわれない新たな発想や取組み**が求められている。

○ 経営資源としての**事務局職員の満足度を高める職場の風土や文化づくり**にさらに取り組んでいくことが求められている。

「中間評価シートⅠ」

評価Ⅱの評価内容	
ア）これまでの実績	令和2年度～4年5月までの取組み実績を整理
イ）取組みによる成果	取組みによる具体的な成果を次の視点に引き寄せて整理 ▽ 変化 ／ ▽ 影響 ／ ▽ 進展 ／ ▽ 深まり
ウ）計画終期に向けた課題	取組み実績を踏まえ、計画期間終期に向けて事務局横断ですすめる取組みの課題を次の視点に引き寄せて整理 ▽ 不足 ／ ▽漏れ ／ ▽未達

【チャレンジ1】こどもの貧困・貧困の連鎖をなくすための取組みの強化

○ 地域における「みんなの居場所／こどもの居場所」の立ち上げ支援や情報提供に取組んだことで一定の実績は積み上がっているが、**市町や地域によって取組みや基盤に格差が生まれないような支援**が求められている。

【チャレンジ2】ひきこもり・8050問題への理解促進と支援の輪づくり

○ 県社協のネットワークを活かし、市町社協や社会福祉法人、福祉団体や関係者と課題を共有する機会づくりに取り組んできたが、今後は、**具体的な課題を解決していく協働の仕組みや取組み**が必要になっている。

【チャレンジ3】福祉・介護で働く在日外国人への支援

○ 技能実習制度を活用した福祉・介護人材の確保の取組みは緒についたばかりであることから、引き続き、**福祉現場における人材確保の課題や実態把握**をすすめるとともに、**外国人材のヨコのつながりづくりやスキルアップへの支援**が求められている。

【チャレンジ4】企業や社会福祉法人と連携してすすめる障がい者の社会参加促進

○ 福祉現場における就労促進への呼びかけや地域活動への参加を促す活動支援に取り組んでいるが、啓発中心に留まっているため、**多機関と情報や課題を共有する場や社会参加を実現する具体の協働プログラム**が求められている。

【チャレンジ5】災害福祉救援体制の強化

○ 市町社協、福祉施設、社会福祉法人、福祉関係団体・組織、企業セクター（ライオンズクラブ、青年会議所）とのネットワーク基盤は整ったが、今後は**それぞれのネットワークを重層的に機能させる仕組みや具体的な取り組み**が求められている。

「中間評価シートⅡ」